

ニセコ町の自治創生の取組状況（報告）

1. 町民などとの意見交換

(1) 町民などとの意見交換の場

① まちづくり懇談会

町の課題の一つとして「自治創生」を取り上げ、これまでの取組状況を説明し、意見交換を実施した。

期 日： 平成 27 年 11 月 17 日（火）～12 月 9 日（水）（全 12 回）

<特徴的な意見（抜粋）>

- 日本全体や北海道全体の人口が増加しないのだから、ニセコ町だけが人口が増加する将来像は、現実的とは言い難い。
- 日本における対都市圏への人口流出は、海外よりも極端に進んでいると聞く。課題・影響には、地方自治だけで解決できないものも含まれている。 対策のレベルを見誤らないよう留意すべき。
- 「日本中の注目を集める」のは取組の結果として得られるものであり、目標としては相応しくない。 日本中の注目を集める取組でも、必ずしも地域のためになるとは限らない。

② J A ようてい青年部ニセコ支部との意見交換会

自治創生のうち、特に農業分野の検討の方向性や具体的施策を中心にアイデアやヒントを得るため、J A ようてい青年部ニセコ支部との意見交換を行った。

期 日： 平成 27 年 12 月 9 日（水） 18:30～19:00

場 所： J A ようていニセコ支所

出席者： 14 名（うち役場 2 名、青年部員 11 名、JA 担当者 1 名）

<特徴的な意見（抜粋）>

- 出面さんの確保に苦労している。毎年同じ方に決め打ちでお願いしているケースも多いが、出面さんの高齢化が進んでいる。 春～秋の中でも、出面さんが必要な繁忙期と、出面さんが不要な閑散期がある。
- 農地が不足しており、新規就農を拓げるのは難しい。 やる気やノウハウがある農家が農地を拡大していく方が、後継者の確保にもつながりやすい。

- 6次産業化が難しいのは、同じ農作物の安定供給と加工～販売までできる担い手の確保が困難なことによる。
- ニセコ町は様々な農作物が作れる。多様性こそがニセコ町の農業のよさ。ブランド化と称して何か絞り込むならば、町全体の戦略として考えることになる。

③ 東京ニセコ会との意見交換会

町内目線からは収集できない範囲の自治創生に向けたアイデアやヒントを得るため、町外かつ東京圏に所在するニセコ町の応援団である、東京ニセコ会との意見交換を行った。

期 日：平成27年12月13日（日）16:00～17:15

場 所：住吉地区集会所（東京都江東区）

出席者：11名（うち役場1名、東京ニセコ会10名）

<特徴的な意見（抜粋）>

- 千歳空港からニセコまでJRだと3時間もかかる。ニセコ町へのアクセス向上が必要。バス整備がニセコ町単独で難しければ、周辺町村で費用を捻出することも考えられる。
- 都市圏より収入が少なくても、電気・ガス・水道などへの支出が少なく手元にお金が多く残ることが、地方の魅力の一つになりうる。地熱発電を導入すれば、電気代を安くすることにもつながる。
- 大学卒業後のニセコ町出身者に対するケアが行き届いていない。東京ニセコ会でも、20代～30代の東京圏移住者を網羅的に把握できているわけではない。
- ICT、コールセンター、トレーダーは、都市と地方で差がつきにくい業種で、企業誘致のポテンシャルもある。

④ まちづくりトーク

有志町民グループ「円坐」の呼びかけによって「まちづくりトーク[※]」を開催し、自治創生などについて意見交換を行った。

期 日：平成28年1月25日（月）18:30～21:00

場 所：町民センター

出席者：14名（うち役場4名（町長含む））

※町民がグループで町長と懇談したい場合に利用できる制度。5人程度の町民が集まれば、指定する日時・場所に町長や担当部署の職員が訪問する。少人数の意見交換により、濃密な情報共有・住民参加が期待できる場となっている。

<特徴的な意見（抜粋）>

- 小さくても話し合いの場を持つことが大事。それだけでなく、「それいいね」と思った町民が実行・行動に移せるかが重要。その際、町民だけでは実現できないものも考えられるため、役場（特に若手職員）と協働したい。
- 役場のニーズとして、町民にやってもらいたいことは何かをもっと知りたい。それが分かれば、もっと町民がまちづくりに関われるようになる。
- 町のまちづくりの歴史を世代間で共有できれば、問題意識を持った町民が増えてくる。これまでにまちづくりのうねりを作った町民との接点や記録をもっと知りたい。

（２）骨子（案）への意見募集（パブリックコメント）

「ニセコ町人口ビジョン」及び「ニセコ町総合戦略」を策定するにあたり、両骨子（案）に対する意見募集（パブリックコメント）を実施した。

期 日： 平成 27 年 12 月 21 日（月）～平成 28 年 1 月 15 日（金）

意 見： 6 名【資料 1－3：意見への対応方針（案）】

備 考： 本文（案）への意見募集は別途実施する（3 月上旬予定）

2. 広報・情報共有

（１）広報ニセコへの掲載

自治創生の輪を拡げて、町内一丸となった雰囲気づくりを進める一環として、コラム「自治創生の部屋へようこそ」を、広報ニセコ 12 月号及び 2 月号に掲載した。

（２）新聞記事

ニセコ町の自治創生に係る公開企画などについて北海道新聞社倶知安支局に情報提供するなど、新聞記事を介した情報発信によって広く目に留まる工夫に努めている。

（平成 27 年 12 月 12 日 北海道新聞朝刊）

「地方版総合戦略へ 若手農業者と懇談」

（平成 28 年 1 月 26 日 北海道建設新聞）

「住宅不足を解消 創生総合戦略など骨子案」

（平成 28 年 2 月 13 日 北海道新聞朝刊）

「豪州研修や活性化策 ニセコ高生が活動報告」

(3) その他

J A ようてい 広報誌「ようてい」(No.224、2016 年 1 月号)で、「J A ようてい 青年部ニセコ支部との意見交換会」(平成 27 年 12 月 9 日(水)開催)の様子を紹介いただいた。

また、ニセコ高校活動報告会(平成 28 年 2 月 9 日(火)開催)の中で、地域経済分析システム(RESAS)を用いた政策提案「地域の人口減少とまちの賑わいを新たな融合で解決する。」(第 3 回ニセコ町自治創生協議会資料 2 - 4)についても発表いただいた。

3. 今後の予定

- | | |
|-------|---|
| 3 月上旬 | 「ニセコ町自治創生総合戦略」本文(案)への意見募集(パブリックコメント) |
| 3 月中旬 | ニセコ町議会 政策案件等説明会 |
| 3 月下旬 | 「ニセコ町自治創生総合戦略」策定 |
| 4 月以降 | 「ニセコ町自治創生総合戦略」に基づく自治創生の推進とフォローアップ
まちづくり町民講座、広報ニセコ(今後の自治創生に向けて) |